

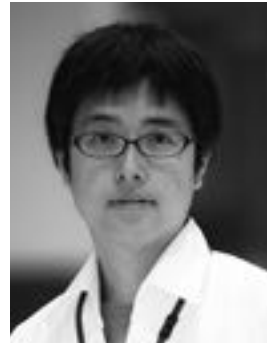
入局者自己紹介



柳町 昌克

出身大学：
横浜市立大学
卒業年：
平成 12 年
初期研修病院：
横浜市立大学医学部附属病院

2016年4月から中途採用で東京医科歯科大学小児科に入局させて頂きました柳町昌克と申します。横浜市立大学卒業後、横浜市立大学の関連病院で働いておりましたが、この度、臨床面・研究面で評判の高い東京医科歯科大学小児科の一員に加えて頂き嬉しく思っております。今まで主に血液腫瘍や免疫不全症の臨床に携わってききましたが、面白そうなことに色々と首を突っ込みたい性格で、横浜市大時代は、循環器、神経、膠原病の先生方とも臨床研究などをさせて頂いてきました。そのせいか、未だに何が専門なのか自分でも分からない状況です。2016年度は血液免疫グループの病棟医：70%、マンデーセミナー掛：30%くらいのエフォートで、皆様にサポート頂きながら楽しく仕事をさせて頂きました。2017年度は医科歯科大学附属病院小児科病棟医長を仰せつかってしまいました。マンデーセミナー掛を取り上げられてしまったのはとても残念ですが、患者さんやご家族が少しでも安心して闘病でき、スタッフの先生方や看護師さんが楽しく働ける病棟を目指して、微力ながら尽力するつもりでおります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



星野 顕宏

出身大学：
富山医科薬科大学
卒業年：
平成 17 年
初期研修病院：
昭和大学病院

卒後12年目で入局させて頂きました、星野顕宏と申します。私はこれまでに臨床は昭和大学と富山大学で、小児の血液および免疫疾患の勉強をしてきました。化学療法、造血幹細胞移植、感染症など合併症に対する治療などの診療をしていく中で、特に原発性免疫不全症の診断や治療に興味を持ち富山大学小児科の大学院に進学しました。富山大学小児科は以前から抗体産生不全の研究を行っている教室で、金兼先生の下で原発性免疫不全症の診断や治療について学びました。大学院3年目の時に、金兼先生の東京医科歯科大学へ異動と同時に私も東京医科歯科大学で研究の続きを行いました。大学院を卒業し、そのまま東京医科歯科大学小児科に入局させて頂いた次第です。

現在は血液・免疫グループに所属し、大学病院での病棟医の立場です。原発性免疫不全症はまれな疾患であるため、多くの小児科医はあまり遭遇することはなく、勉強できる機会も限られていることが通常だと思います。しかし、東京医科歯科大学小児科では病棟にも外来にも多くの患者さんがおり、全国の施設から検体が送付されてくるといふ専門性があり、非常に充実した仕事ができている。このような恵まれた環境で、今後は臨床と研究ともに携わっていきたいと考えています。今後ともよろしくお願い致します。



江本 留奈

出身大学：
国立浜松医科大学
卒業年：
平成 26 年
初期研修病院：
順天堂大学浦安病院

平成26年度卒、医師4年目の江本 留奈です。大学ではヨット部に所属し、土日、連休に部活動があり、5年生まで活動をしていました。部活の後に飲食業のバイトをしていたこともあり、体力はある方だと自負しております。初期研修は他大学の附属病院で行い、小児科専門コースではなく、内科の臨床研修をいたしました。選択では小児外科や耳鼻科、脳神経外科など、小児科が関わる他科を中心に回り、違う視点で小児と関わることが出来、とても勉強になりました。後期研修から、東京医科歯科大学に入局し、入局1年目は川口市立医療センターに勤務いたしました。初期研修医の時は小児科をほとんど回らず、外来もあまりこなさなかったため、不勉強な自分は、ゼロからのスタートとなりましたが、上級医の先生方に丁寧に手厚くご指導いただき、小児科医の基礎を身に着けられ、勉強させていただいたと思います。川口市立医療センターの看護師さんたちも優しくサポートして下さり、小児科1年目がこれほど恵まれた環境でできたことを、誠に感謝しております。現在は土浦協同病院の新生児科に勤務しております。また新しい環境で、緊張などもありましたが、丁寧に指導いただき、勉強させていただいています。人からはよく、真面目と言われる。その真面目さを活かし、小児科医として、今後も研鑽を積み、臨床を中心に働いていければと考えております。専門グループなどはまだ決めていませんが、様々な症例と向き合い、これから決断していければと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



大坂 溪

出身大学：
新潟大学
卒業年：
平成 26 年
初期研修病院：
東京医科歯科大学プログラム

平成28年に入局いたしました大坂 溪と申します。大学までを新潟で過ごし、初期研修から東京に出てきて東京医科歯科大学のプログラムとして1年目を土浦協同病院、2年目を東京医科歯科大学附属病院で研修を行いました。学生時代から未来のある子供たちをみる小児医療に携わりたいという漠然とした思いから小児科医を志していましたが、初期研修で小児科を研修させていただく中で小児医療の楽しさややりがい、大変さなど多くのことを教えていただき、小児医療に携わりたいという思いは変わることなく今に至ります。

後期研修1年目は東京都立墨東病院小児科で、一般小児診療から今まで携わらなかった集中治療管理まで多くの貴重な症例を経験するとともに多くの先生方からご指導いただき、多くの経験を積むことが出来ました。2年目の4月からは川口市立医療センター小児科で研修させていただいており、各分野の先生に早急に相談、ご指導いただける素晴らしい環境の中で多くの刺激を受けながら、また子供たちに笑顔をもらいながら充実した日々を送っています。

まだまだ未熟でご迷惑を多々おかけすることがあると思いますが、先生方のような小児科医を目指して日々努力していきたいと思いますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



大原 智子

出身大学：
富山大学
卒業年：
平成 26 年
初期研修病院：
武蔵野赤十字病院

平成28年に入局させていただきました大原智子と申します。

富山大学を卒業し、2年間の初期研修を武蔵野赤十字病院で行いました。幼い頃から小児科医を志し医学部に入学しましたが、初期研修中はローテートした科がみな楽しく魅力的で、最後まで科の選択に悩み周囲を心配させましたが、最終的には初心にかえり小児科に入局させていただきました。

後期研修1年目は東京北医療センターで研修させていただき、今年度も同病院に所属しています。まだ自分一人ではできないことだらけで、特に当直業務では、痙攣止まらなかったらどうしよう・・・などと毎回不安な夜を送っていましたが、上級医の先生方にたくさん助けをいただきながら、充実した研修を送ることができています。

現在、私事で恐縮ですが、今年3月に長男を出産し育児休暇をとらせていただいています。発熱や嘔吐など、日々の外来でのありふれた出来事も、自分の子供となると小児科医の自分でさえもやはり非常に不安で心配になり、世の親御さんたちが救急外来に駆け込んでくる気持ちが痛いほどわかります。育児休暇をとらせていただいている間、研修では遅れをとってしまっていますが、実際に自分で子供を育て成長を間近でみるのが非常に良い経験となっており、今後の診療に生かしていきたいと思っております。

まだまだ未熟でご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、幼き頃に思い描いた小児科医に少しでも近づけるように努力していきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



小野 静香

出身大学：
山梨大学
卒業年：
平成 26 年
初期研修病院：
山梨県立中央病院

平成28年度に入局させて頂きました小野静香と申します。山梨出身で山梨大学を卒業後、山梨県立中央病院で初期研修を2年間行いました。医学部を目指しているときから小児科医として働くことを目標にしていました。生まれてからほとんどを山梨で過ごしていましたが、縁あって東京に出てくることとなり、東京医科歯科大学の雰囲気の高さと各分野の専門性の高さに惹かれ、門をたたかせていただきました。後期研修1年目は半年間大学で各分野をローテートさせていただき、半年間は東京北医療センターで研修させていただきました。一般小児から専門性の高い医療まで学ばせていただき、とても濃い1年でした。2年目は土浦協同病院の新生児科で研修させていただいています。超低出生体重児から外科治療を必要とする子まで様々な子たちを経験させていただいています。

全く知らない土地で、突然の入局を温かく迎え入れて下さり、大変感謝しています。3年目の4月当初は不安でいっぱいでしたが、優しく尊敬する先生方にご指導いただき、日々充実した研修を送らせていただいています。至らない点が多くご迷惑をおかけすることが多いかと思いますが、1日1日精進しますので今後ともどうぞよろしくお願い致します。



下山 輝義

出身大学：
福島県立医科大学
卒業年：
平成 26 年
初期研修病院：
東京医科歯科大学プログラム

平成28年度に入局しました下山輝義と申します。出身は埼玉県ですが、福島の地で6年間の大学生活を送りました。初期研修は東京医科歯科大学のプログラムで、1年目は大学、2年目は都立墨東病院で勉強させて頂きました。医科歯科大学の小児科の先生方とも接する機会が多く、入局するきっかけを作って頂きました。

小児科を志したのは中学の時であり、ようやく自分の夢が叶い毎日楽しく働かせて頂いております。無限の可能性が広がる子供たちの成長に関わることができ、嬉しさとともに強い責任を感じます。昨年度は川口市立医療センター小児科に勤務させて頂きました。子供たちが元気になるって退院していく姿が何よりも嬉しく、やりがいを感じました。2年目の現在は同病院のNICUの勤務となりましたが、小児科とはまた別世界で、まだまだ戸惑う部分は多々ありますが、非常に充実した日々を送らせて頂いております。超低出生体重児の子が元気に退院していく姿は、やはり感銘深いです。

小児科医となってまだ1年足らずですが、生の瞬間、死の瞬間に立ち会うなかで、考えさせられることがたくさんありました。子供との接し方、またご両親との接し方に悩むこともありました。思い悩んだ事一つ一つを忘れずに、これからの診療に活かしていきたいと思えます。

小児科医としての道を歩み始めたばかりですが、これから先、研究や留学など含めやりたいことが山ほどあります。1歩1歩着実に実力をつけ、諸先輩方のように実績を残せるように頑張っています。初心を忘れずに、日々全力で邁進していきたいと思えます。今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。



野村 知弘

出身大学：
滋賀医科大学
卒業年：
平成 26 年
初期研修病院：
大津赤十字病院

平成28年度入局、野村知弘と申します。

大学から初期研修までの8年間を過ごした滋賀県大津市は比叡山、眼下には雄大な琵琶湖を一望でき、紫式部など古来より数々の文化人、教養人が思索を巡らせた風光明媚な街です。豊かな風土の中、地域の急性期医療を一手に担う総合病院でローテート研修を行う中で、一般小児科診療、救急医療、集中治療にも初期研修医ながら多数関わることができました。一般診療を疎かとせず、加えて分野別専門治療、集中治療など幅広く関わることができる多様性に魅力を感じたことや、未来ある子どもたちと関わることが自分の社会貢献に繋がるのではないかという信念から小児医療の道を選びました。

後期研修1年目はJAとりで総合医療センターで、一般小児科研修を開始しました。一般外来診療、フォローアップ外来診療、検診などを小児科初年度ながら多数経験することができました。そうした日々の中で、疾病に応じた対応だけでなく、小児の発達段階のフォローにも注力し、小児科診療に対して新たな魅力を感じるようになりました。他施設では得難い非常に実りある一年であったと感じております。

後期研修2年目は大学病院研修で、各グループをローテートしております。一般小児科研修を1年終えた後のグループ別専門研修は、今迄経験したことのない疾患に対して理解を深めるだけでなく、小児科臨床の一般的事項も含めたブラッシュアップになっていると感じています。

今後は、小児一般のみならず、新生児医療にも従事した上で、自身の将来、小児科医としての方向性を模索していこうと考えております。



本間 あおい

出身大学：
東京医科歯科大学
卒業年：
平成 26 年
初期研修病院：
東京医科歯科大学プログラム

初めてお目にかかります、26年卒、28年入局の本間あおいと申します。

生まれ育ちは神奈川県茅ヶ崎市、大学は東京医科歯科大学出身です。学生時代は、硬式テニスの他、学園祭の実行委員活動（第59回お茶の水祭実行委員長も努めさせていただきました）などをしていました。特技は風景画、趣味はスポーツ観戦です。

現在は土浦協同病院の研修の一部で、茨城県立こども病院の血液腫瘍科で働いています。

まずは一般小児をしっかりと学び、将来はがんのこどものために働きたいと思っています。

東京医科歯科大学小児科のお仲間に入れていただき、長く憧れていた小児科医としての一步を踏み出すことができ大変幸いに思います。

東京医科歯科大学の出身ですから、学生の頃より医科歯科大学小児科の先生がたには大変お世話になり、自然に、憧れの先生がたと一緒に働くのだ、と思っておりました。

医科歯科の先生がたはみなさま優しく、教育的で、そして患者さん思いです。お仲間に入れていただき、本当によかったです。

これから小児科医として、日本の小児医療、医局の発展、そしてもちろん病気のこども達のために貢献していきたい所存でございます。

よろしくお願いたします。



山内 泰輔

出身大学：
東京医科歯科大学
卒業年：
平成 26 年
初期研修病院：
東京医科歯科大学プログラム

平成26年に入局させていただきました、山内泰輔と言います。

九州出身の両親のもとに昭和63年2月1日に北海道札幌市で生まれました。2つ下に弟、5つ下に妹がいます。幼少期は楽しいことばかりで、友達や兄弟同士での遊びやコミュニケーション、SFや冒険、ヒーローものの物語や映画、登山やキャンプなどが人格の明るい要素を作ったような気がします。中学3年から福岡県に移り、高校からは鹿児島県にあるラ・サール高校で学びました。高校では、勉強と読書ばかりしていて内的世界がとても広がりましたが、同時に偏屈さを助長しました。一年浪人の末に東京医科歯科大学に合格し、ラグビー部に入り、里見寮で暮らし、留年をしました。むちゃくちゃな生活をしていましたが、7年分の友人を得ましたし、リーダーシップをとる楽しさ、集団で成し遂げる素晴らしさを実感しました。大変な劣等生でしたが、病院実習が始まる頃から猛勉強し、なんとか卒業と国家試験合格を果たしました。小児科に決めたのは、5年生のときです。細やかで配慮のあるプロフェッショナリズムへの憧れと、弱く幼い者を助けたいという本能的な気持ちが合わさり、志望しました。働き始めてからは、すべての子どもたちの存在が、親や社会にとって愛すべき未来や可能性、希望そのものであってほしいと思いますし、子どもたち自身もそう思えるような手助けがしたいと考えるようになりました。理想の医師像は、マンガのヒーローのように、困難に直面しても挫けず、子どもを安心させる小児科医です。現実はそうもいかないことばかりで自己嫌悪の毎日ですが、敢えてここで書くことで、忘れないようにしたいです。



結城 奏

出身大学：
山梨大学

卒業年：
平成 26 年

初期研修病院：
川口市立医療センター

平成28年度に東京医科歯科大学小児科に入局させていただいた結城奏と申します。

出身大学は山梨大学で、卒業後2年間は川口市立医療センターで初期研修を受けさせていただきました。初期研修はどの科もとても勉強になり魅力的でしたが、小児科研修を経験して、もともと小児科医を志していた気持ちがより強くなりました。

入局後から現在までの1年間半は、土浦協同病院に勤務し、教育的な先生がたのもとで様々な疾患を経験させていただき、知識や手技だけでなくご家族への対応や心配りも勉強させていただいています。

また、上級医の先生がたが臓器に縛られずに網羅的に全身をみる一方で、専門的な診療にもあたられている姿にはとても憧れを抱いています。やはりどのグループもとても勉強になり魅力的で、どの分野に進むことになるかわかりませんが、先生がたのような小児科医をめざして日々努力していきたいと思えます。

不勉強でご迷惑をおかけいたしますが、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。